

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】
2 実施対象者	北九州市立長尾小学校 Ⅱ：第2学年 2クラス 64名 保護者3名 Ⅲ：第4学年 3クラス+特別支援学級 90名 地域の方10名 第5学年 2クラス 62名 Ⅳ：全学年 16クラス 434名 地域の方8名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ③ その他 ○ 全校児童による「タイ国立プラサンミット小学校との交流」 ・2年生「おもてなし講座」 ○ 5年生による「車椅子バスケットボール・オランダチームとの交流会」 ・4年生「福祉体験学習」
4 目標 (ねらい)	タイとの交流や車椅子バスケットボール・オランダチームとの交流等の体験を通して、国際理解の心情やおもてなしの心の育成と、障害をもった方々と共生する社会や誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて考え、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	① タイ国立プラサンミット小学校との交流 ◇日時：平成29年10月11日（水）・12日（木） ◇目的：毎年定期的に北九州市を訪れ、環境を含めた学習を継続的に実施しているタイ国立プラサンミット小学校との交流によって、日本の文化の理解と国際理解の心情を育成する。また、タイのホストタウンとしての「おもてなしの心」を育成する。 ◇事前学習：全学年、それぞれの教科でタイの子どもたちとの交流を行う。よって、「こんにちは」「さようなら」の挨拶や授業の始まりと終りの号令、授業で必要な言葉をタイ語に訳して、学年毎に練習した。また、北九州市が東京オリンピック・パラリンピックにおいて、タイのホストタウンに決定したことを子どもたちに教えるとともに、世界地図の中の日本とタイの位置関係やそれぞれの文化について学習した。 ◇取組内容 【1日目】全校児童で歓迎集会 ○4年生と「連合音楽会の練習」 ○6年生と「陸上記録会の練習」



歓迎集会でタイ語を披露している様子

## ○1年生と「昔遊び」



タイの小学生と竹とんぼをする1年生

1年生は、毎年、地域のボランティアによる「昔遊び体験」を実施している。今年も「はねつき・けん玉・あやとり・お手玉・竹とんぼ・折り紙」を教えていただいた。今回は、タイのお友達に教えてあげてことを意識して取り組んだ。

## 【2日目】

### ○2年生と「体育あそび（出会いのゲーム・おにごっこ）」

#### 「音楽あそび（みんなで歌おう・歌でゲーム）」

2年生は、体育と音楽の時間を通して、タイの子どもたちと交流をした。

音楽では、タイを代表する動物であるゾウについて学習するとともに、日本語とタイ語で「そうさん」の歌を練習して、タイの子どもたちと合唱した。



出会いのゲームをする2年生

### ○3年生と「習字」



筆のもち方や筆遣いを教える3年生

3年生は、事前に一つ一つの道具の名前をローマ字で書いたカードを作成し、それを示しながら道具の使い方を身振り手振りで説明していた。3年生は、改めて筆の使い方や筆遣いを確認しながら、タイの子どもたちに習字を教えていた。

### ○5年生と「外国語活動」と「調理実習（ご飯とみそ汁）」



ALT を中心に英語による自己紹介  
(外国語活動)



お米をとぎながら、タイと日本のお米の違いについて話している5年生

◇事後学習：各学年が、実際にタイの子どもたちと授業等で交流したことを振り返る時間を設定した。言葉や文化の違いを実感するとともに、国が違って互いを理解しようとする気持ちやその気持ちが伝わったときの喜びを表現する子どもが多く見受けられた。北九州市はタイのオリンピック・パラリンピック選手のホストタウンである。本取組での出会いを大切にすること、2020年に向けて一人一人ができることを実行に移すことがオリンピック・パラリンピックの成功につながることを確認した。

② 車椅子バスケットボール・オランダチームとの交流会

◇日時：平成29年11月8日（水）3・4校時

◇目的：車椅子バスケットボール・オランダチームの選手との交流や競技用車椅子の使用体験を通して、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。


◇事前学習：北九州市で開催される「国際車椅子バスケットボール大会」について参加する国や競技のルール等について学んだ。また、「北九州市小学生車椅子バスケットボール大会」への出場のために、実際に競技をすることでパラリンピック競技に対する理解を深めた。

◇取組内容：オランダチームの選手はコーチを含めて7名。交流試合では、オランダの選手たちのスピードやテクニック、シュート力を実際に目の当たりにして、子どもたちは終始驚きっぱなしであった。試合後は、選手へ積極的に質問をしていた。

交流会の司会グループ、横断幕作成グループとそれぞれの役割を担い、準備を進めることで、主体的・創造的・協同的に取り組む姿が随所に見受けられた。



交流試合後に、オランダ選手と一緒に記念撮影

◇事後学習：11月9日（木）、10日（金）に総合体育館で行われた北九州市小学生車椅子バスケットボール大会に出場した。他校のチームとの初めての対戦。広い会場の雰囲気にもまれてしまうのではないかと心配されたが、互いに声をかけ合い、励まし合いながら普段通りのプレーをすることができた。そして、目標通りの優勝を勝ち取ることができた。10日（金）には国際大会の総合開会式があり、代表の子どもたちはオランダの選手と並んで入場したり、オランダチームの試合を観戦したりした。この体験を通して、チーム  
車椅子バスケットボール決勝戦の様子で話し合い、一人一人がそれぞれの役割を決めて、同じ目標に向かって助け合い、励まし合ってプレーすることを学んだ。また、一生懸命に努力することの大切さ、そして努力は必ず実ることを実感することができた。

6 主な成果

① タイ国立プラサンミット小学校との交流より

- 全学年がタイの小学生と交流し、学校を挙げてタイの言葉や文化を調べたり、日本の遊びや文化を教えるための準備をしたりすることを通して、児童一人一人がタイの子どもたちと積極的に関わることができた。
- 中学年の児童は、歓迎集会でタイの子どもたちが披露してくれた踊りや衣装に興味をもち、積極的に話しかけていた。また、地域のボランティアの方々の協力により、お茶や着付け体験を実施した。他国の小学生との交流を通して、世界の中の日本を意識するとともに、言葉や文化の違いだけでなくそれぞれのよさについて考えるきっかけとなった。

② 車椅子バスケットボール・オランダチームとの交流会より

- 車椅子バスケットボールの国際的トップアスリートと子どもたちの交流を行うことを通して、障害のある人に対する理解と認識を深めること、バリアフリーの意識や人に対するやさしさをもつこと、そして国際理解の精神について考える機会となった。



7実践において工夫した点  
(事業の特色)

本年度は、①タイ国立プラサンミット小学校との交流と②車椅子バスケットボール・オランダチームとの交流会という2つの取組を柱とした。来年度へつなげるために、さらに2つの柱に付随する取組を実施した。

◇2年生の「おもてなし講座」〈平成30年1月12日(金)5校時〉

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には5年生として長尾小の要となる2年生を対象に、筑波大学客員教授：江上いずみ先生を講師としてお招きし、「おもてなし講座」を実施した。「おもてなし」は、相手に喜んでもらうことをして差し上げること。おもてなしと思いやりの心をもって人と接すると相手も自分も周りの人もいい気持ちになれることを教えていただいた。



江上先生におもてなしの心を  
教えていただいた2年生

とくに、「挨拶は相手に何と言っているかが分かるように顔を上げたまま言葉を発し、その後、頭を下げること」については、教えていただいてすぐに行動に移し、気持ちのよい挨拶をする姿が見受けられるようになった。



握手は右手で相手の  
目を見てギュッと握る

おもてなし・思いやりの心を小さいうちから磨き、当たり前に行動できるようになることは、子どもたちのこれから先の人生をきっと豊かにしてくれると思われる。

◇4年生の「福祉体験学習」〈平成30年1月23日(火)2~4校時〉

5年生の車椅子バスケットボール大会への出場を受けて、障害のある人や高齢者に対する理解と認識を深めるために、4年生が「福祉体験学習」に取り組んだ。アイマスクを付けて目が見えない状態をつくり、不安定なマット上を歩いたり、狭い通路を通ったりする



2人組でのアイマスク体験



身体が思うように動かせない  
体験をする4年生

「アイマスク体験」。耳栓や視野が狭くなるメガネをかけたり、関節が自由に動かなくなるようなサポーターや手首・足首・お腹におもりを装着したりする「高齢者体験」。それぞれの体験により、障害をもった方やお年寄りが生活する上での苦労や工夫を知ることができた。また、体験を通して感じたことを基に障害をもった方たちと共生する社会について、さらに来年度の取組につなげる。

アイマスクを付けていると、小さな段差も分からず、転びそうになりました。誘導するのも難しく、声を出しているのにうまく相手に伝わりませんでした。どちらの体験も難しく、目の不自由な方や高齢者の方の思いに少しだけ近づけられたように感じました。自分たちにできることは何かを考えるきっかけになったと思います。

～4年生の振り返りより～

<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイの小学生との交流は、本年度のみであるが、今後はタイのホストタウンとしての北九州市の動向を基にした取組を計画する。</li> <li>・ 本年度は、タイやオランダの人たちとの交流を通して、世界の中の日本を意識することができた。オリンピック・パラリンピックが日本で開催される意義を踏まえ、国際的な交流やオリンピック・パラリンピックの種目に関する理解等をどのように企画するかが課題である。</li> </ul>
<p>9 来年度以降 の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成について</li> <li>○ 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成</li> <li>○ スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 本年度取り組んだ上記の3つの柱を中心に、日頃からの実践とともに、「総合的な学習の時間」の取組を企画する。 また、「おもてなしの心」につながる「思いやりの心」等、道徳科の授業においても本事業を意識して取り組む。 さらに、様々なスポーツを体験したり、本校体育館に設置しているボルタリングの体験等を活用したりして、スポーツマン精神やオリンピック・パラリンピックの競技種目に対する認識と理解を深める。</li> </ul>